2027年３月期　第２四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年11月５日

上場会社名　　株式会社シーボン　　上場取引所　東
コード番号　　4926　　ＵＲＬ　https://www.cbon.co.jp/company/
代表者　　（役職名）代表取締役社長 執行役員　　（氏名）崎山　一弘
問合せ先責任者　（役職名）執行役員 管理本部責任者　　（氏名）松本　裕右　　ＴＥＬ　03-3404-7501

半期報告書提出予定日　　2026年11月13日　　配当支払開始予定日　2026年11月30日
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無　　：有 （機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

１．2027年３月期第２四半期（中間期）の連結業績（2026年４月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績（累計）　　（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年３月期中間期	4,618	0.2	163	30.2	171	18.9	151	31.1
2026年３月期中間期	4,610	6.9	125	－	144	－	115	－

（注）包括利益　2027年３月期中間期　151百万円　（32.1%）2026年３月期中間期　114百万円　（－%）

	１株当たり中間純利益	潜在株式調整後１株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年３月期中間期	36.34	－
2026年３月期中間期	26.94	－

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年３月期中間期	8,430	5,794	68.7
2026年３月期	8,601	5,688	66.1

（参考）自己資本　2027年３月期中間期　5,794百万円　2026年３月期　5,684百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年３月期	－	10.00	－	10.00	20.00
2027年３月期	－	10.00			
2027年３月期（予想）			－	10.00	20.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

３．2027年３月期の連結業績予想（2026年４月１日～2027年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,527	2.8	308	21.7	325	15.5	200	△6.3	46.97

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※　注記事項

（１）当中間期における連結範囲の重要な変更：有

新規　ー社　（社名）　　、除外　1社　（社名）倩朋（上海）化粧品有限公司

（注）詳細は、「2.中間連結財務諸表及び主な注記（4）中間連結財務諸表に関する注記事項（連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更）」をご覧ください。

（２）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更	：無
②　①以外の会計方針の変更	：無
③　会計上の見積りの変更	：無
④　修正再表示	：無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年３月期中間期	4,281,200株	2026年３月期	4,281,200株
②　期末自己株式数	2027年３月期中間期	120,690株	2026年３月期	120,690株
③　期中平均株式数（中間期）	2027年３月期中間期	4,160,510株	2026年３月期中間期	4,280,511株

※　第２四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、Ｐ．３「１．当中間決算に関する定性的情報（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足資料の入手方法）

当社は、2026年11月26日（木）に機関投資家及びアナリスト向け説明会を開催する予定です。この説明会の資料については、開催後速やかに当社ホームページへ掲載する予定です。

○添付資料の目次

１．当中間決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 2
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．中間連結財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）中間連結貸借対照表 …… 4
（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 …… 5
中間連結損益計算書 …… 5
中間連結包括利益計算書 …… 6
（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書 …… 7
（４）中間連結財務諸表に関する注記事項 …… 8
（継続企業の前提に関する注記） …… 8
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 8
（連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更の注記） …… 8
（中間連結貸借対照表に関する注記） …… 8
（中間連結損益計算書に関する注記） …… 8
（中間連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記） …… 8
（セグメント情報等の注記） …… 8

１．当中間決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当中間連結会計期間における日本国内の経済環境は、雇用・所得環境の改善などを背景に、個人消費には緩やかな回復の動きが見られました。一方で、継続的な物価上昇に伴う消費者の節約志向の強まりに加え、資源・原材料価格の高騰や為替の変動、海外情勢の不安感の高まりなど、先行きは引き続き不透明な状況で推移いたしました。

当社グループが属する化粧品業界におきましては、外出機会の定着や美容意識の高まりを受けて需要は堅調に推移した一方で、消費ニーズの細分化やデジタル化に伴う競争の激化に加え、光熱費・物流コスト・人件費などの固定費上昇が利益面での圧迫要因となるなど、厳しい経営環境となりました。

こうした経営環境の中、当社グループは、当期からスタートした新たな中期経営計画（2027年３月期～2029年３月期）の初年度として、「主体性あふれる組織づくり」「顧客体験価値の深化」「生産体制と品質管理体制の向上」「店舗オペレーションの効率化・接客効率の改善」「シナジー効果による新たな店舗形態の出店」という重点課題を掲げ、持続的な企業価値の向上を目指しております。

「主体性あふれる組織づくり」「顧客体験価値の深化」の施策として、前期末に導入したラーニング・マネジメント・システム（LMS）を活用したオンライン研修の定着化に加え、外部講師による役職者等への教育研修を継続的に実施いたしました。これにより店舗スタッフのカウンセリング力および接客の質が向上しております。

また、４月より新規顧客との接点であるトライアルプランの価格を1,500円から3,500円へ改定いたしました。その結果、価格改定に伴い新規顧客の来店数は前年同期比90.7％と減少したものの、新規契約率は前年同期比105.9％、更には新規顧客の購入単価は前年同期比106.5％と前年同期を上回り、新規顧客への売上高は前年同期比102.3％と増加いたしました。

継続顧客においては、「顧客体験価値の深化」に向け、美容皮膚科専門医による「美容セミナー」や鍼灸師による「セルフストレッチセミナー」など、ロイヤル顧客限定のイベントを開催いたしました。その結果、ロイヤル顧客数が堅調に拡大し、継続数※は前年同期比101.8％となりました。一方、千葉県や熊本県などを中心とした大雨等の悪天候に伴い、一時的に来店機会が減少したことが影響し、継続顧客の平均購入単価は前年同期比98.1％にとどまり、継続顧客売上高は前年同期比99.9％と概ね前年同期並みの水準となりました。

「店舗オペレーションの効率化・接客効率の改善」の施策として、前述のトライアルプランの価格改定による購買意欲の高い顧客層の獲得と１接客当たりの顧客単価の向上に加え、直営店舗の一部大型店舗でのリネンのアウトソーシングを実験的に開始し、店舗スタッフの施術・付帯業務の負担を軽減し、お客様への対面接客時間を十分に確保できる体制の構築を進めております。さらに、各店舗の予約状況や需要動向に応じた柔軟な人員の適正配置（ヘルプ体制の強化やシフト最適化）を推進することで、繁忙店における予約受付枠の拡大と店舗稼働率の向上に取り組んでおります。

「シナジー効果による新たな店舗形態の出店」の施策として、トリートメント専門店である「イマトリ大森店」にヘアサロンを併設した「シーボンヘアサロンneaf大森店」をオープンするなど、ヘア事業間での相互送客や連携強化を図っております。また、顧客満足度の更なる向上および顧客体験価値（CX）の最大化を目指し、「フェイシャリストサロン」にて付与・利用されているポイントシステムを「ヘアサロンneaf」と相互にご利用いただけるよう、制度の拡充に向けた検討を進めております。フェイシャリストサロンとヘアサロンの連携を強化し、お客様への提供価値の多様化と利便性向上を図るとともに、グループ内の相互送客・送客基盤の拡大によるシナジー効果の創出に努めてまいります。

この結果、当中間連結会計期間における連結売上高は4,618,060千円(前年同期比0.2％増)となりました。利益面におきましては、営業利益は163,114千円（前年同期比30.2％増）、経常利益は171,988千円（前年同期比18.9％増）、親会社株主に帰属する中間純利益は151,192千円（前年同期比31.1％増）となりました。

※継続数
：１ヵ月に１回以上来店のあるお客様ののべ人数

（２）財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

（流動資産）

当中間連結会計期間末の流動資産は4,573,775千円となり、前連結会計年度末に比べ229,519千円減少いたしました。その主な要因は、現金及び預金の減少（前連結会計年度末比323,707千円減）、商品及び製品の減少（前

連結会計年度末比31,828千円減）があった一方で、受取手形及び売掛金の増加（前連結会計年度末比94,215千円増）によるものであります。

（固定資産）

当中間連結会計期間末の固定資産は3,856,941千円となり、前連結会計年度末に比べ58,617千円増加いたしました。その主な要因は、その他有形固定資産の増加（前連結会計年度末比64,576千円増）があった一方で、無形固定資産の減少（前連結会計年度末比3,041千円減）、投資その他の資産のその他の減少（前連結会計年度末比1,573千円減）によるものであります。

（流動負債）

当中間連結会計期間末の流動負債は2,293,031千円となり、前連結会計年度末に比べ277,942千円減少いたしました。その主な要因は、契約負債の減少（前連結会計年度末比37,586千円減）、流動負債その他の減少（前連結会計年度末比234,004千円減）、未払法人税等の減少（前連結会計年度末比6,378千円減）があった一方で、買掛金の増加（前連結会計年度末比3,803千円増）によるものであります。

（固定負債）

当中間連結会計期間末の固定負債は343,257千円となり、前連結会計年度末に比べ772千円増加いたしました。その主な要因は、資産除去債務の増加（前連結会計年度末比724千円増）によるものであります。

（純資産）

当中間連結会計期間末の純資産は5,794,427千円となり、前連結会計年度末に比べ106,267千円増加いたしました。その主な要因は、利益剰余金の増加（前連結会計年度末比109,587千円増）によるものであります。

この結果、自己資本比率は68.7％（前連結会計年度末は66.1％）となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、税金等調整前中間純利益が186,991千円となったほか、売上債権の増加及び契約負債の減少により、前中間連結会計期間に比べ49,906千円減少し、当中間連結会計期間末には2,692,452千円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間において、営業活動の結果使用した資金は128,649千円となりました。これは主に、税金等調整前中間純利益186,991千円、減価償却費97,298千円、未払消費税等の減少171,955千円、未払金の減少42,181千円、売上債権の増加94,215千円によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間において、投資活動の結果使用した資金は154,010千円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出150,088千円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間において、財務活動の結果使用した資金は41,701千円となりました。これは主に、配当金の支払額41,701千円によるものであります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年５月13日付「2026年３月期　決算短信〔日本基準〕（連結）」にて発表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

２．中間連結財務諸表及び主な注記

（１）中間連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 （2026年３月31日）	当中間連結会計期間 （2026年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,016,160	2,692,452
受取手形及び売掛金	807,435	901,650
商品及び製品	359,907	328,078
仕掛品	65,340	71,786
原材料及び貯蔵品	372,837	392,401
その他	181,895	187,717
貸倒引当金	△281	△312
流動資産合計	4,803,294	4,573,775
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,162,464	2,161,119
土地	244,827	244,827
その他（純額）	159,444	224,021
有形固定資産合計	2,566,736	2,629,968
無形固定資産	24,258	21,217
投資その他の資産		
その他	1,230,329	1,228,756
貸倒引当金	△23,000	△23,000
投資その他の資産合計	1,207,329	1,205,756
固定資産合計	3,798,323	3,856,941
資産合計	8,601,618	8,430,716
負債の部		
流動負債		
買掛金	77,679	81,483
未払法人税等	57,958	51,580
契約負債	1,415,929	1,378,343
資産除去債務	10,414	6,638
その他	1,008,991	774,986
流動負債合計	2,570,974	2,293,031
固定負債		
資産除去債務	301,013	301,738
その他	41,471	41,519
固定負債合計	342,484	343,257
負債合計	2,913,459	2,636,289
純資産の部		
株主資本		
資本金	483,930	483,930
資本剰余金	367,830	367,830
利益剰余金	4,814,714	4,924,301
自己株式	△156,062	△156,062
株主資本合計	5,510,413	5,620,000
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	163,416	174,426
為替換算調整勘定	10,884	－
その他の包括利益累計額合計	174,300	174,426
新株予約権	3,445	－
純資産合計	5,688,159	5,794,427
負債純資産合計	8,601,618	8,430,716

（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

（中間連結損益計算書）

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
売上高	4,610,015	4,618,060
売上原価	1,145,534	1,087,638
売上総利益	3,464,480	3,530,421
販売費及び一般管理費	※ 3,339,155	※ 3,367,307
営業利益	125,324	163,114
営業外収益		
受取利息	725	630
受取配当金	3,787	4,149
受取家賃	3,102	3,102
投資有価証券売却益	10,786	－
その他	2,483	1,191
営業外収益合計	20,885	9,073
営業外費用		
支払利息	325	0
支払手数料	1,239	－
その他	6	198
営業外費用合計	1,571	199
経常利益	144,638	171,988
特別利益		
関係会社清算益	－	11,558
新株予約権戻入益	－	3,445
特別利益合計	－	15,003
特別損失		
固定資産除却損	418	－
減損損失	945	－
特別損失合計	1,364	－
税金等調整前中間純利益	143,273	186,991
法人税、住民税及び事業税	57,440	25,940
法人税等調整額	△29,495	9,858
法人税等合計	27,945	35,799
中間純利益	115,327	151,192
親会社株主に帰属する中間純利益	115,327	151,192

（中間連結包括利益計算書）

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
中間純利益	115,327	151,192
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,804	11,010
為替換算調整勘定	△2,575	△10,884
その他の包括利益合計	△771	125
中間包括利益	114,556	151,318
（内訳）		
親会社株主に係る中間包括利益	114,556	151,318

（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	143,273	186,991
減価償却費	106,518	97,298
減損損失	945	－
関係会社清算益	－	△11,558
貸倒引当金の増減額（△は減少）	187	31
受取利息及び受取配当金	△4,512	△4,779
支払利息	325	0
為替差損益（△は益）	△504	－
投資有価証券売却損益（△は益）	△10,786	－
売上債権の増減額（△は増加）	△106,038	△94,215
棚卸資産の増減額（△は増加）	△7,092	5,818
未収消費税等の増減額（△は増加）	91,711	－
仕入債務の増減額（△は減少）	△13,945	3,803
前払費用の増減額（△は増加）	△21,124	△29,404
未払金の増減額（△は減少）	△32,242	△42,181
未払消費税等の増減額（△は減少）	137,699	△171,955
未払事業税の増減額（△は減少）	7,180	△9,921
長期未払金の増減額（△は減少）	△763	－
契約負債の増減額（△は減少）	△98,525	△37,586
その他	53,952	△3,374
小計	246,258	△111,033
利息及び配当金の受取額	6,132	4,778
利息の支払額	△325	△0
法人税等の支払額	△43,160	△22,393
営業活動によるキャッシュ・フロー	208,904	△128,649
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△66,103	△150,088
敷金及び保証金の差入による支出	△9,930	－
敷金及び保証金の回収による収入	3,101	4,521
その他	△2,702	△8,443
投資活動によるキャッシュ・フロー	△75,635	△154,010
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△42,731	△41,701
財務活動によるキャッシュ・フロー	△42,731	△41,701
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,816	654
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	88,722	△323,707
現金及び現金同等物の期首残高	2,653,637	3,016,160
現金及び現金同等物の中間期末残高	※ 2,742,359	※ 2,692,452

（４）中間連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更）

（連結の範囲の重要な変更）

当中間連結会計期間において、倩朋（上海）化粧品有限公司は清算結了したため、連結の範囲から除外しております。

（中間連結貸借対照表に関する注記）

該当事項はありません。

（中間連結損益計算書に関する注記）

※　販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
従業員給料	1,306,665千円	1,336,475千円
退職給付費用	8,625	9,858

（中間連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記）

※　現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
現金及び預金勘定	2,742,359千円	2,692,452千円
預入期間が３ヶ月を超える定期預金	－	－
現金及び現金同等物	2,742,359	2,692,452

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

当社グループは、化粧品及び医薬部外品の製造販売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。